

主要都市での「敬老乗車券制度」導入状況

千葉県バス協会

1、 現状

現在 200 を上回る市町村自治体に於いて、いわゆる「敬老乗車券制度」が導入されております。その内容は地域の実状を考慮しながら「対象年齢」「対象交通機関」「乗車券形態」「本人負担」「自治体負担」「介護保険料や所得に応じた利用制限」等の項目により、大変多様になっております。各地のアンケート結果によると、主に「レジャー」や「趣味」で利用されている都市部と「日々の生活必需品の買い物」や「医療機関への通院」に欠かせない山間部とでは、その存在価値が大きく異なっております。

2、 特別区や政令指定都市での実施状況

都市名	年齢	名称
札幌市	65	敬老優待乗車証
仙台市	70	敬老乗車証
横浜市	70	敬老特別乗車証
川崎市	70	高齢者外出支援乗車事業
浜松市	70	社会参加促進事業
名古屋市	65	敬老バス（公営バス）
京都市	70	敬老乗車証
大阪市	70	敬老優待乗車証
堺市	65	おでかけ応援カード
神戸市	70	敬老優待乗車証
広島市	70	高齢者公共交通機関利用助成
福岡市	70	高齢者乗車券
東京都	70	シルバーバス

※（1）上記 13 都市にて現在導入中です。

※（2）千葉市、静岡市、北九州市は過去導入実績有、現在は廃止となっております。

※（3）相模原市、さいたま市、新潟市、岡山市の導入実績はありません。

3、 主な自治体の取組み状況

(1) 東京都の取組み

- ①対象年齢 70歳以上 ②名称 「東京都シルバーパス」
- ③利用交通機関 都営地下鉄、都営バスとほとんどの民営乗合バス
- ④金額 (A) 1,000円 (所得金額1,250千円以下)
(B) 20,510円 (所得金額1,250千円以上)
- ⑤発行枚数 1,694,861枚 (平成22年度)
- ⑥補助金総額 15,700,740千円 (平成22年度)

(2) 仙台市の取組み

- ①対象年齢 70歳以上 ②名称 「敬老乗車証」
- ③利用交通機関 市営地下鉄、市バス、民営バス1社
- ④金額 (A) 1,000円、5,000円 (利用限度額無、所得に応じて金額確定)
(B) 無料 (利用限度額10,000円) ※上記A、Bの利用者選択制
- ⑤発行枚数 97,886枚 (平成21年度)
- ⑥補助金総額 2,136,840千円 (平成21年度)

(3) 横浜市の取組み

- ①対象年齢 70歳以上 ②名称 「敬老特別乗車証」
- ③利用交通機関 市営地下鉄、市営バス、民営バス14社、3セク
- ④金額 無料、3,200円、6,500円、8,000円、19,500円 (所得に応じて金額確定)
- ⑤発行枚数 321,058枚 (平成21年度)
- ⑥補助金総額 回答不可

(4) 川崎市の取組み

- ①対象年齢 70歳以上 ②名称 「高齢者外出支援乗車証」
- ③利用交通機関 市バス、民営バス6社
- ④金額 (A) 無料配布の乗車証明書提示で大人運賃の半額となるパス (全員自動配布)
(B) 有料フリーパス (1ヶ月1,000円、利用者申請制)
- ⑤発行枚数 (A) 約150,000枚 (B) 116,049枚 (平成22年度)
- ⑥補助金総額 約1,467,000千円 (平成23年度予算)

(5) 広島市の取組み

- ①対象年齢 70歳以上 ②名称 「高齢者公共交通機関利用助成」
- ③利用交通機関 民営バス10社、電車1社、JR、船、市内タクシー、3セク
- ④金額 無料 (6,000円分の交通機関の共通カード、各社回数券、タクシーチケットの中から選択)
- ⑤発行枚数 約70,000件 (平成22年度)
- ⑥補助金総額 約420,000千円 (平成22年度)

以上